まちづくり意見公募　資料１

第６次広尾町まちづくり推進総合計画
後期見直し（案）
（重点プロジェクト）

＜目次＞

① 広尾の魅力発信プロジェクト　・・・・・・・　２
② 「広尾の食資源」開発、伝承プロジェクト　・・・・・・・　３
③「サンタランド」の魅力向上プロジェクト　・・・・・・・　４
④ ひろお子育て力向上プロジェクト　・・・・・・・　６
⑤ 自分大好きプロジェクト　・・・・・・・　７
⑥ 「賑わいと健康」創出プロジェクト　・・・・・・・　８
⑦ 買い物利便性向上プロジェクト　・・・・・・・　９
⑧ 空き家再生プロジェクト　・・・・・・・　１０
⑨ 広尾高校魅力向上プロジェクト　・・・・・・・　１１

令和７年９月

企画課

重点プロジェクト

まちの喫緊の課題に対応し、集中的かつ分野横断的に実施する施策を「重点プロジェクト」としてまとめました。この９つのプロジェクトは、人口減少対策や地方創生にも関わるものです。

実行に移す際は、プロジェクトチームを組織して、関係する団体の職員や一般町民などにも参画していただくことを想定しています。それぞれのプロジェクトには、まちづくりワークショップで出された「日本で一番、○○なまちをめざす！」という目標を掲げ、産業・経済団体、福祉・教育団体、地域団体などと町が対等なパートナーシップを築き、まち全体の力を結集して、「日本で一番」魅力のあるまちに少しでも近づけることができるよう、機運を高めていきます。

① 広尾の魅力発信プロジェクト
“広尾の魅力や情報が集まる拠点の創出”

②「広尾の食資源」開発、伝承プロジェクト
“新たな魅力の創出と今あるものの魅力の再発見”

③「サンタランド」の魅力向上プロジェクト
“ここにしかない「サンタランド」の魅力に磨きをかける”

④ ひろお子育て力向上プロジェクト
“地域のみんながお父さん、お母さん”

⑤ 自分大好きプロジェクト
“関わり、交わり、認めて、育てる、地域の宝”

⑥「賑わいと健康」創出プロジェクト
“豊かな自然の中で、健康増進と体験型観光を楽しむ！”

⑦ 買い物利便性向上プロジェクト
“誰もが町内で買い物しやすい環境をつくる”

⑧ 空き家再生プロジェクト
“空き家を徹底的に活用し、人が集まる場をつくる”

⑨ 広尾高校魅力向上プロジェクト
“地域に学び、地域とつながり、地域を支える人材を育てる高校に”

① 広尾の魅力発信プロジェクト “広尾の魅力や情報が集まる拠点の創出”

水産業	農業	商工業	観光・ｻﾝﾀﾗﾝﾄﾞ	町民参加	地方創生

担当課　企画課、水産商工観光課、農林課

目　標　「日本で一番、また来たくなるまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●町外客が、町内において観光情報や飲食店の情報などを入手しづらい。インターネット上の情報も乏しく、せっかく来町しても十分に楽しむことができないことで、また来たいと思ってもらえない可能性がある。

●町の特産品は、水産加工店や菓子店での販売のほか、ふるさと納税の返礼品としても活用しているが、その魅力を多くの人に十分にアピールできているとは言えない。

原因 まちの特産品の現物や各種情報を集約してわかりやすく魅力的に紹介する拠点施設がなく、また、推進体制も確立されていないため。

●町民が、休日などに町内で過ごす場所が少ないため、帯広や札幌など他のまちに買い物やレジャーに出かけてしまい、購買力の流出とまちの活気の喪失に繋がっている。

原因 町民が多目的で集い楽しむ場や遊具の充実した公園などが少ないため。また、町内の小売店の多くが日曜日に営業していないため。

方向性	概要
広尾町の特産品やサンタランドの魅力などをつめこんだ拠点施設をつくる。飲食、情報、物が集約され、町外客だけでなく、子どもから高齢者まで多くの町民が集い楽しむ場所とする。また、町民による地域内消費も喚起する。	町外客が、特産品を買い求めたり、様々な情報を得たり、食事や飲み物を味わい、くつろげる場を提供することにより、「また来たくなるまち」をめざす。加えて、町民の利用を想定し、複合的な要素を盛り込んだ拠点としての機能を併せ持つ施設をめざす。（例：本×カフェ×パン×子供の遊び場×コンビニなど）

具体的な方法

町外の人や町民の交流拠点となる特産品を販売する施設をつくる。⇒（ねらい）まちの中心部に人を集める。

推進方法

事業化の際は、役場、観光協会、商工会、漁協、農協など関係機関で構成する検討組織を立ち上げ、建設場所や規模、運営方式などについて検討する。また、コンセプトとターゲットを明確にして、広尾ならではの特色を前面に押し出した施設となるように練り上げ、他の地域の施設との差別化を図り、将来的に「道の駅」の機能を備えることも視野に入れる。

「行政」の役割（国、道、町）	事業化に向けた基本方針や事業計画作成の中心的役割を担い、初期コストの財源を確保するための手続などを主導する。
「事業者」の役割（企業、産業経済団体等）	各機関が連携し、コンセプトの提案から運営主体としての役割までを担い、収益を上げるよう最大限の努力をする。
「地域」の役割（町内会、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ｻｰｸﾙ等）	施設を積極的に活用するとともに、施設周辺の環境整備、施設の維持管理、運営の一部などにボランティアとしての参画を検討する。
「町民」の役割（個人、家庭）	施設を積極的に利用するとともに、町外の知人などへの周知・利用促進に協力する。

②「広尾の食資源」開発、伝承プロジェクト “新たな魅力の創出と今あるものの魅力の再発見”

水産業	農業	商工業	観光	食育	郷土学習

担当課　水産商工観光課、農林課、健康管理センター

目　標　「日本で一番、食べ物がおいしいまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●**広尾町の食資源の豊富さや質の高さについての知名度が低く、他の地域の後れをとっている。**

原因 広尾町産の水産物、農畜産物の多くが原料生産にとどまり、付加価値を高めるブランド化や、加工・調理などの商品化・メニュー化の取組が弱く、食資源の優位性を十分にアピールできていないため。

●**広尾町ならではの食文化である魚のさばき方、イクラの作り方、魚介類を原料とした漬物、保存食などの作り方が伝承されず、消滅の危機にある。**

原因 核家族化により次世代に調理法などが伝承されづらくなっていることに加え、共稼ぎ世帯の増加により、各家庭における調理の機会が減っていると思われるため。

方向性	概要
広尾町の食資源の優位性（水産物：漁場が近いため鮮度が良く、魚種が豊富なこと。農畜産物：良質な生乳を生産していることなど）を生かした新たな特産品を開発するとともに、町の食文化を次世代の町民に伝承し、食べ物がおいしい町としての知名度を上げる。	広尾町の水産物や農畜産物を原料とした新たな特産品を開発し、商品化・ブランド化を図ることにより、食資源の豊富さや質の高さをアピールするとともに、広尾町の食文化（魚を使った漬物、保存食など）を次世代の町民に伝承することで、地域の食文化を守り、広尾町の食の魅力を町内外に伝え広める。

具体的な方法

① 新たな特産品（加工品）や鮮魚をブランド化した商品を開発し、拠点施設での販売、飲食店での提供、ふるさと納税の返礼品などで幅広く活用する。

② 広尾の食文化を伝承する料理講座を定期開催する。

推進方法

生産者等が加工・商品開発・流通販売までを手掛ける第６次産業化の取組を支援する。（例：自家製の高品質な生乳を原料とした乳製品（チーズ、アイスクリームなど）の開発・販売など）

また、新たに「特産品開発チーム」を組織したり、既存の広尾産業流通振興公社の機能を拡充したりするなど、商品開発やブランド化、販路拡大などに取り組む体制を強化する。

さらに、食文化伝承では、各産業団体の情報提供を受けて地域の中で講師となる人材を発掘し、組織化を図ることで継続的な伝承事業の実施を可能とする。

「行政」の役割（国、道、町）	全体を統括し、特産品開発や工房整備に係る交付金などの財源確保と、広尾産業流通振興公社を中心とした販路の拡大を図る。
「事業者」の役割（企業、産業経済団体等）	各機関が連携し主体的役割を担い、特産品の商品化、ブランド化を進めるための生産体制を構築する。
「地域」の役割（町内会、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ｻｰｸﾙ等）	地域の中で人材を募り、広尾の食文化を伝承するための団体を発足し、料理講座等の継続開催に協力する。
「町民」の役割（個人、家庭）	特産品の積極的な消費と贈答などによる町外の人へのPRに努めるとともに、食文化伝承への理解と協力を行う。

③「サンタランド」の魅力向上プロジェクト “ここにしかない「サンタランド」の魅力に磨きをかける”

観光・ｻﾝﾀﾗﾝﾄﾞ | ひとづくり | 交流人口拡大 | 関係人口拡大

担当課　水産商工観光課、企画課

目　標　「日本で唯一、サンタランドの魅力にあふれるまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●町民のサンタランドに対する想いが薄れてきており、まちぐるみで盛り上げる機運が低下している。

原因 サンタランドの基本理念「愛と平和、感謝と奉仕」の精神やノルウェーのオスロ市から認定されたことの価値が多くの町民に共有されていないため。

●イルミネーションやサンタカードなど、他のまちでも類似した取組や商品が存在するようになり、広尾サンタランドならではの魅力をアピールすることが難しくなっている。

原因 いろいろな地域で行われているクリスマスに関する取組や商品などとの差別化を図ることができず、色々なアイデアを試しているが、有効な策とはならず年々埋没していっているため。

●サンタランドを観光施設と捉えた場合、魅力に乏しく、長い時間滞在したいと思ったり、また来たいと思ってもらえるようなものになっていない。

原因 限られた予算での施設整備となり、時代が移ろいゆくなかで、観光施設としての新鮮さや、町外の人を引き付ける魅力の創出には限界があるため。

方向性	概要
「サンタランドのまち」が国内唯一であることの価値を町民が再認識し、まちぐるみでみんなが楽しめるような取組を通じ、「サンタランド」を楽しみ、その魅力に磨きをかける。	既存のサンタランド事業を継続し、内容を充実させて発信力を強化するとともに、話題性のある取組を新たに企画し、まちぐるみで取り組むことにより、サンタランドの魅力や精神、イメージを町内外にアピールする。また、写真映えするシンボルスポットを整備するなど、中高生・若者の興味を惹くような取組を織り交ぜ、サンタランドの魅力をさらに向上させる。

具体的な方法

① 既存事業（サンタカード、点灯式、ウェルカムサンタランドなど）は内容を充実させて魅力を高めるとともに発信力をさらに強化する。（例：新たに大人向けのサンタカードを作るなど）

② 若い世代の興味を惹く撮影スポットを創る。（例：イルミネーションの森の創設、サッポロファクトリー規模のジャンボツリーの設置など）

③ 町民が一丸となって取り組むことができる話題性のある事業を実施する。（例：クリスマスイヴの日に、町内の事業所の人が全員クリスマスのコスチュームで仕事をするなど）

④ サンタランドのオリジナル商品を制作する。（町民や町外の方のアイデアを取り入れたり、デザインを募集したりする）

推進方法

プロジェクトチームを組織してサンタランドの精神に則った新たな事業を企画立案し、町内の団体の力を最大限に生かして実行する。また、サンタランドの精神を広めるためボランティア団体の育成を図り、民間主導で再度サンタランドを町民から盛り上げる機運を高める。

「行政」の役割（国、道、町）	基本理念「愛と平和、感謝と奉仕」を基にサンタランドの定番事業を主体的に推進する。
「事業者」の役割 （企業、産業経済団体等）	民間主導でサンタランド関連の取組を企画・実施するとともに、あらゆる面でサンタランド事業を支援し、まちぐるみでサンタランドを盛り上げる機運を創る。
「地域」の役割 （町内会、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ｻｰｸﾙ等）	サンタランドの精神に則り、ボランティア活動など住民が手作りで行うことができるサンタランド関連の取組を主体的に実施するとともに、サンタカードを積極的に利用する。
「町民」の役割（個人、家庭）	サンタランドに住んでいることを自覚し、様々な事業や取組に関心を示し積極的に参加するとともに、子どものいる家庭は、クリスマスの過ごし方を工夫し、子どもたちに夢を与え続ける。

④ ひろお子育て力向上プロジェクト “地域のみんながお父さん、お母さん”

子育て	少子化対策	ボランティア	公園緑地

担当課　保健福祉課子育て支援室

目　標　「日本で一番、安心して子どもを育てられるまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●必要数の保育士を確保することができず、待機児童が発生する恐れがある。

原因 全国的に保育士の人材不足が問題となっており、広尾町においても慢性的に不足しているため。

●土日・祝日の保育や病児保育など保育サービスの更なる向上が求められている。

原因 共働き家庭が増加し、その勤務形態も多様化しており、働きながら安心して子育てができる環境へのニーズが高いため。

●子どもの遊び場に対する町民の満足度が低く、屋内、屋外ともに遊ぶ施設が少ないとの指摘がある。

原因 まちの中心にある丸山公園は、遊具が少なく、小さい子どもの遊び場として満足度が低い。また、大丸山森林公園は、徒歩や自転車では行きづらい。さらに、子育て世代の家族が居住地の近くに気軽に行ける公園がないと感じている。屋内の遊び場である子育て支援センターは、利用時間が限られていたり、土日や祝日に利用できなかったりするので、いつでも利用できる屋内の遊び場へのニーズが高まっている。

方向性	概要
隣近所や町内会の結びつきを強くし、地域ぐるみで子育てを支える体制を整えるとともに、遊ぶ場所の整備や保育サービスの充実などにより、安心して子育てできる環境をつくる。	一人で子育ての悩みを抱え込んでいる人に対し、子育てOG・OBを活用した子育て支援ボランティアの組織を育成するなど、地域ぐるみで子育てを支える体制を整備する。また、要望の多い「子どもが安全にのびのび遊べる場所」の整備や保育サービスの充実を図り、子育て支援のさらなる充実を図る。

具体的な方法

①多様なニーズに応えられるよう子育てボランティアを確保し、子どもの預かりを希望する人との連絡調整を行う「ファミリー・サポート・センター」事業の充実を図る。

② 居住状況に応じた子どもの遊び場（屋内、屋外）の整備を推進する。

③ 病児保育や延長保育など保育サービスの充実を図る。

④ 「出産祝い金制度」を継続する。

⑤ こども家庭センターを設置し、支援体制の充実を図る。

推進方法

保健福祉課の子育て支援室を中心に、子育て支援ボランティアを募り、ファミリー・サポート・センター事業を推進する。また、まちの中心部に「子どもが安心して遊べる場所」として新たに公園や屋内遊び場の整備を進める。

「行政」の役割（国、道、町）	・保育士の確保に努め、保育サービスの充実を図る。 ・子どもが安心して遊ぶことができる場をつくる。
「事業者」の役割（企業、産業経済団体等）	子育てのための休暇を取得しやすい環境づくりに努める。
「地域」の役割（町内会、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ｻｰｸﾙ等）	・子どもや子育てを町内会など地域ぐるみで見守る体制をつくる。 ・子育てOG・OBを中心としたボランティア組織に参画・協力する。
「町民」の役割（個人、家庭）	・家庭の育児力の向上を図る。 ・地域とのつながりを積極的にもつ。

⑤ 自分大好きプロジェクト “関わり、交わり、認めて、育てる、地域の宝”

幼児教育	学校教育	高校教育	家庭教育	社会教育

担当課　教育委員会管理課、社会教育課

目　標　「日本で一番、子どもが自分を好きになれるまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●アンケートによると、町内の子ども達の中に自分に自信の持てない子が多く見られる。

原因 地域の大人が子ども達の様子を温かい目で見守ったり、よさを認めたりする機会が不足しているため。

●子ども達の地元への関心が低く、郷土愛の醸成が不十分である。

原因 地元の産業や地域の住民と直接関わることが少なく、地元の良さや歴史・伝統行事などを学ぶ機会が限られているため。

●教育に関する家庭と学校、家庭と地域の連携協力関係の構築が不十分である。

原因 教育が学校に依存しており、家庭と地域の関わりが希薄なため。

方向性	概要
幼児期から自己肯定感を高め、小・中・高校では自己実現、進路実現に向けた取組を行い、人格形成の基礎を養う。これらの取組を地域で支えることでまち全体の生涯学習の推進につなげる。	子どもたちが自分の価値や存在意義を肯定し、夢や希望あふれる未来に向かうよう、学校・家庭・地域が「目指す子ども像」を共有し、実現に向け連携した取組を行う。学校では、個人の資質、能力（学力）の向上に努め、家庭では積極的に子どものよさを認める環境づくりを実践する。また、地域では行事等で子どもと交流を図りやすい環境づくりを進めるなど、まち全体で子どもたちに温かい眼差しを向ける。

具体的な方法

① 各小中学校の学校運営協議会により、保護者や地域住民等の学校経営への参画や学校運営への支援・協力を促進する。

② 「広尾っ子応援団」による応援メッセージ事業や放課後読書等ふれあい広場」の実施により、児童生徒の自己肯定感を育むとともに、放課後の安全安心な居場所を提供する。

推進方法

各学校に立ち上げられた「学校運営協議会」と、「広尾っ子応援団本部」の連携により、学校運営に地域住民の意見を反映させる取組（コミュニティ・スクール）を推進する。

「行政」の役割（国、道、町）	・「資質・能力（学力）」を向上させるよう取り組む。 ・地域の方々に向けて教育の情報発信を行う。
「事業者」の役割（企業、産業経済団体等）	・教育に積極的に参画する意識を持ち、地域の子ども達を温かい目で見守る。 ・従業員が学校と地域との交流の場に積極的に参加できるよう配慮する。
「地域」の役割（町内会、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ｻｰｸﾙ等）	・教育に積極的に参画する意識を持ち、地域の子ども達を温かい目で見守る。 ・学校見学など、学校と地域との交流の場に積極的に参加する。
「町民」の役割（個人、家庭）	・家のお手伝いに積極的に取り組ませる。 ・家庭内でも「叱る」より「よさを認める」ことで成長を促す。

⑥「賑わいと健康」創出プロジェクト “豊かな自然の中で、健康増進と体験型観光を楽しむ！”

水産業	農業	林業	体験型観光	スポーツ	健康づくり	地方創生

担当課　水産商工観光課、企画課、健康管理センター、農林課、教育委員会社会教育課

目　標　「日本で一番、田舎を楽しむまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●自然環境など豊かな地域資源を生かした遊びを提唱する活動が定着せず、優位性を生かし切れていない。

原因 地域資源を活用した体験メニューを開発し、町外から広尾町へ訪れる人に対して提案するノウハウを持つ人や、体験メニューのインストラクターとなる人材が不足しているため。

●町民の健康づくり活動は、室内で行うものが多かったり、年代ごとに行われていたり、愛好者に限定されていたりで、屋外で誰もが楽しみながら行うものが少ない。

原因 パークゴルフを除き、屋外で行う健康づくり活動が少なく、世代を超えて楽しむことができる健康づくり活動が不足しているため。

方向性	概要
自然など地域資源を生かした体験型観光を創出するとともに、身近な自然を生かした町民の健康づくりを推進する。	自然など地域資源を生かした体験メニュー（例：サーフィン、農山漁村体験、潮干狩、地引き網、釣り、鹿撃ち、山菜採りなど）を開発し、町外から訪れる方々に体験型観光を楽しんでいただくとともに、身近な自然を生かした健康づくり活動（ウォーキング、ゴミ拾い、自然ガイド、農山漁村体験など）を行い、豊かな自然環境を生かしたまちの賑わいの創出と、町民が楽しみながら健康増進を図る取組を推進する。

具体的な方法

① 主に町外の人を対象とした体験型観光の体験メニュー（例：サーフィン、農山漁村体験、潮干狩り、地引網、釣り、山菜採り、鹿撃ち<ジビエ>など）を開発する。

② 主に町民を対象とした健康づくり事業（例：ウォーキング、サイクリング、ゴミ拾い、自然ガイド、農山漁村体験など）を企画して実施する。

推進方法

職員や町民の有志などを集め「プロジェクトチーム」を組織し、観光協会や体験型観光を担う「ピロロツーリズム推進協議会」（以下、「観光協会等」という。）とも連携し、体験型観光と町民の健康づくり事業を企画運営する。ポイント制を導入したり、自主的なサークルの立ち上げを促すなど、取組を継続できるよう工夫する。

「行政」の役割（国、道、町）	事業者や地域をサポートするとともに、健康づくり事業を企画するプロジェクトチームの中心的役割を担う。
「事業者」の役割（企業、産業経済団体等）	【観光協会等】体験メニューを開発し提供するなど、体験型観光を運営する。 【その他の企業、産業団体】体験型観光の取組に協力する。
「地域」の役割（町内会、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ｻｰｸﾙ等）	健康づくり活動などに積極的に参加するとともに、自主的にサークルを立ち上げるなどして、活動の継続を図る。
「町民」の役割（個人、家庭）	これらの活動に関心を持ち、地域を盛り上げて、楽しみながら健康づくりを行う事業へ積極的に参加する。

⑦ 買い物利便性向上プロジェクト “誰もが町内で買い物しやすい環境をつくる”

商工業	買い物環境	公共交通

担当課　保健福祉課、企画課、水産商工観光課

目　標　「日本で一番、町民が買い物に困らないまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●アンケートによると、買い物の便利さに対する満足度が１９%と低い状況である。

●町内の商店は情報が乏しく、また、品揃えが悪いイメージがあり、町民は帯広の店や宅配サービス、インターネット販売などで買う傾向があり、購買力の流出に繋がっている。

原因 本通り商店街には空き店舗が目立ち、空洞化が進んでいることに加え、音調津地区には商店が無く、野塚・豊似地区には商店が少ないため。

原因 帯広の大型店や生協などの宅配サービス、インターネット販売などは、商品選択の幅が広く、価格が安い商品を探すことも可能であるため、品揃えや価格の面で町内商店の競争力が弱いため。

原因 町内の小売店の多くが日曜日に営業していないため。

方向性	概要
町民が地域内で買い物しやすい環境を整えるとともに、町内小売店のサービスや商品（以下、「商品等」）の魅力を高め、情報発信を充実させることにより、地域内消費を喚起する。	広尾ならではの商品等に磨きをかけ、その魅力を高めるとともに、公共交通の利便性を向上させながら、宅配サービスや買い物代行サービス、移動販売など買い物支援サービスの導入や情報発信の充実を図り、町民の買い物の利便性を総合的に高める。

具体的な方法

① 外部人材の意見をとり入れ、町内小売店の商品等の魅力向上（既存の商品の質の向上、パッケージの改善、新商品の開発など）に取り組む。

② インターネットの活用や、合同チラシの発行、「宅配便利帳」の配布など、あらゆる方法を駆使して町内の買い物情報の充実を図る。

③ 宅配サービスの拡大に加え、買い物代行サービスや移動販売・キッチンカーの導入を検討するなど、複合的な買い物支援サービスを展開する。

④ 高齢者が買い物に気軽に利用できるよう、地域内を循環する公共交通を抜本的に見直しする。

推進方法

商品等の磨き上げや情報発信の充実については、商工会を中心に取り組む。買い物支援サービスについては、町と社会福祉協議会、商工会が連携し、「宅配便利帳」の配布に加え、公共交通を活用した宅配や移動販売の導入に向けた実証試験を行うなど事業化を模索する。公共交通の利便性向上については、地域公共交通会議で新たな地域内交通手段を検討するなど、抜本的な見直しを行う。

「行政」の役割（国、道、町）	・地域内を循環する公共交通の利便性の向上を図る。 ・商工会などと連携し、買い物支援サービスの充実に向け取り組み、町民の町内消費を喚起する。
「事業者」の役割 （企業、産業経済団体等）	【各小売店】自店の商品等の磨き上げに取り組む。 【商工会】外部人材の活用を図り、町内全体の商品等の魅力向上と買い物利便性の向上に努める。
「地域」の役割 （町内会、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ｻｰｸﾙ等）	町内小売店での消費に努め、購買力を地域内に循環させる意識を持つ。
「町民」の役割（個人、家庭）	公共交通を活用しながら、町内小売店での消費に努め、購買力を地域内に循環させる意識を持つ。

⑧ 空き家再生プロジェクト “空き家を徹底的に活用し、人が集まる場をつくる”

商工業	観光	景観	地域福祉	居住環境	地域ｺﾐｭﾆﾃｨ	町民参加	地方創生

担当課　企画課、住民課、水産商工観光課、保健福祉課

目　標　「日本で一番、空き家を活用できるまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●**町内で空き家や空き店舗が増加しているが、再利用されずそのままの状態になり、老朽化が進行し周辺地域に悪影響を及ぼす可能性があるなど、問題となっている。**

原因　空き家の情報を一元化する取組が機能しておらず、また、どういう目的で再利用可能かの検討もなされず、活用が進まない状態であるため。また、老朽建物は解体撤去にも多額の経費が掛かるが、持ち主が高齢化し、施設に入所している人もいて対策を行うことができないため。

方向性	概要
町内に点在する空き家や空き店舗を様々な用途で再利用し、人が集まり交流する拠点づくりと空き家等の有効活用を図る。	町内の空き家や空き店舗の増加が課題となっていることから、利用可能な空き家等をリフォームし、町外の人向けの拠点施設（ミニ道の駅、サーファーの拠点、畑付き住宅など）や、町民向けの拠点施設（飲食店、趣味の集まり、サロンなど）として有効活用することで、交流人口の増加と、町民の交流の機会の充実を図る。

具体的な方法

① **空き家をリフォームし、ミニ道の駅（トイレを完備し、特産品を少し販売する）、サーファーの休憩所、畑付き住宅などの用途で、町外の人向けの拠点施設として利用する。**

② **週末だけの飲食店、趣味の集まり、サロンなどの用途で、町民向けの拠点施設として利用する。**

推進方法

関係機関の担当職員を集め「プロジェクトチーム」を組織し、物件情報の調査から始め、活用方法の検討、町民ニーズの把握、所有者との協議、リフォームに向けた設計に町民意見を反映させるなど、空き家や空き店舗の活用に向けた総合的な取組を行う。また、サロンの運営は地域（町内会、ボランティアサークル、趣味の同好会など）が担うことができるよう、育成・支援を図る。

「行政」の役割（国、道、町）	プロジェクトチームを組織し、物件情報の調査からリフォーム支援まで、空き家等を活用するための情報収集と環境整備を主体的に進める。
「事業者」の役割（企業、産業経済団体等）	【商工会】町外から来る人が移住する場合の就職先をあっせん（短期的・季節的な雇用、趣味も楽しめるような形態で）する。 【事業者】空き家や空き店舗への出店を検討する。
「地域」の役割（町内会、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ｻｰｸﾙ等）	サロンの運営、空き家の情報提供への協力、アットホームな環境づくり（受入側）を行う。
「町民」の役割（個人、家庭）	サロンに積極的に参加するとともに、空き家の情報提供に協力する。

⑨ 広尾高校魅力向上プロジェクト “地域に学び、地域とつながり、地域を支える人材を育てる高校に”

学校教育	社会教育	地方創生			

担当課 企画課、教育委員会管理課、教育委員会社会教育課

目　標 「日本で一番、地域に学び、地域とつながる高校をめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●広尾高校への進学者が減少し、生まれ育った地域で学び続ける環境が失われる恐れがある。

原因 少子化による子どもの数の減少と相まって、地元進学率も減少傾向にあるため。

●生徒の学力レベルにばらつきがあり、いかに個々の学習習慣の定着を図り、学力の向上をサポートしていくかが課題である。

原因 中学進学後に数学や英語など授業の難易度が上がり、高校へ進学してからも苦手な教科を克服する手立てが限られているため。

方向性

広尾高校が、子どもたちにとって魅力的な学びを得たり、充実した学校生活を送ったりする場となり、豊かな地域資源を題材に地域の特色を学び、将来まちに戻って活躍できるような人材を育成する拠点として存続させる。

概要

広尾町民や町内企業などの支援を受け、広尾高校の魅力向上の取り組みを推進し、学力の向上、地域学の充実、特色のある授業の導入などを図り、生徒の全国募集を行いながら、多くの生徒に選ばれる魅力的な高校づくりを進める。

具体的な方法

① 町民や企業などに働き掛け、寄付を募ったり、金銭以外の支援を募ったりなど、あらゆる立場から応援する個人や団体を登録する「広高サポーター制」を導入する。
② 地域学をはじめ、インターンシップや探究学習など地域学習を推進する人材として、高校と地域、各学校間をつなぐ「広高魅力向上推進コーディネーター」を配置する。
③ 高校生対象の無料の公設民営塾を開設する。
④ 地域学の確立により、生徒の全国募集を行う。
⑤ 地域に根差した特色のある授業として、未来の社会に役立つ技術や知識を学ぶ職業訓練的な授業の導入を検討する。

推進方法

町民や町内企業の支援を募り「広高サポーター」として登録し、町内の協力体制を整えることに加え、広尾高校存続対策協議会や中高一貫教育連絡協議会、広尾高校学校運営協議会など既存の団体とも連携・協調し、広尾高校の魅力向上をまちぐるみで展開する。また、地域おこし協力隊制度などを活用しコーディネーターを配置する。

「行政」の役割 （国、道、町）	地域の財産である広尾高校の存続に向け、高校の魅力化や地域とのパイプづくりなど、中心となって取り組む。
「事業者」の役割 （企業、産業経済団体等）	高校 ・地域のあらゆる資源を活用しながら、質の高い高校教育を提供する。 企業、団体等 ・高校教育や教育を行う環境をあらゆる面から支援する。 ・卒業者を積極的に雇用して、まちを担う人材として育成する。
「地域」の役割 （町内会、ボランティア・サークル等）	保護者の教育を支え、保護者が地域と繋がりを持てるように努める。
「町民」の役割 （個人、家庭）	生徒の保護者 ・広尾高校に進学することの良さや価値を子ども達に伝える。 その他町民 ・サポート活動に積極的に参加し、広尾高校を応援する。